

“不登校って発達障害なんですか？” 2025. 12. 31 (wed)

不登校の子ども達を発達障害と捉え、放課後デイサービスの対象として対応している団体が増えてきました。放課後デイサービスの対象として認定されれば、単純な話、月謝の半額が市から助成されるから、半額の月謝で放課後デイサービスに通えるのです。勿論、私の数人の知人も同事業を行っています。その知人の事業を否定するようで、これまでそのことに触れずにきましたが、本年最後の日となりましたので、やはり本音を書かせて頂きます。どうぞ反論して下さい。発達障害が不登校の原因になるのでしょうか？私達が捉えてる不登校の心理的素因、交流分析で言う、父性と感性の低さ、及び順応性の異常な高さは発達障害なんのでしょうか？所謂、非認知能力不足が発達障害なんのでしょうか？本紙「小さな人間たちの詩」で書かせて頂いております子どもたちは発達障害なんのでしょうか？私たちはそうは思いません。同紙をお読み頂ければ、発達障害の子どもでも不登校は解消できます。即ち、発達障害は不登校の原因ではない、不登校は教育の対象であって、福祉の対象ではない、と私たちは捉えています。

“「いちばんうつくしい王冠」 2025. 12. 30 (thu)

集められた8人の中学生。劇が完成するまで帰れない。その8人の中学生とは、先輩を差し置いてレギュラーに抜擢されいじめを受けた中学生、友達にカンニングの濡れ衣を被せ、遠くの学校に通う中学生、子役から演じてきて母親から仕事として演じる中学生など。8人の過去の行動を織り込んだ劇を演ずる物語。吉川英治文学新人賞受賞後第一作。まさに「心の深淵に迫る」物語でした。

“身分証、偽造される” 2025. 12. 25 (thu)

皆さま、「ひげぐまグループ ふじのくに中央日本語学校 教育実習生 アユミ」という身分証、名札は偽造です！

一昨日焼津署から当校に、上記の写真付きの身分証、名札の落とし物の連絡があり、昨日焼津署に確認に行ってきました。ふじのくに中央日本語学校には、「教育実習生 アユミ」なる人物はおりません。どんな意図でこんな身分証、名札を作成したのか分かりませんが、これを就職試験書類、あるいは仕事等のなんらかの公的書類又は私文書に利用すれば、私共はあなたを、公文書偽造罪又は私文書偽造罪で告訴しますよ。

驚きました。私共、ひげぐまグループ・ふじのくに中央日本語学校が、こんな形で利用されるとは。

“東進、冬期特別招待講習で入学者が続く” 2025. 12. 24 (wed)

もうクリスマスイブに。ホント光陰矢の如くですね。今年もあと1週間。いつものことながら、日々様々な子どもたちの対応に明け暮れていますと、時が経つのも忘れてしまいます。また相談記録を紐解き、当グループHP「小さな人間たちの詩」に何人かの子ども達の姿を

書き上げました。お読み下さい。一方で、東進の予備校の方でも4名の高校生の対応をしています。基本的には数年前から、私は現場はスタッフに任せ、経営と新規事業の企画・運営に専念するようにはしていますが、当校運営を担う教務主任が休みの時に、知人の紹介もありこの4名の高校生が来校、私に対応した次第です。早速、彼らの成績表や模試データを元に、それぞれの志望校の確実な合格に向けての当校での受講計画を作成・提示し、この冬期特別招待講習で東進の「目から鱗の授業」を体験して頂き、入学を検討して頂いております。1講座目の体験受講が終わり、本日からそのご返事を頂く面談が始まります。既に教務主任の対応で3名が入学、本日も私の方でも入学打ち合わせがあります。勿論、本人の努力が前提ですが、それをサポートする東進の授業力に加え、これまでの学習データを元に、東進が誇るAIが第一志望校の出題傾向に沿って本人の弱点単元をあぶり出し、それをマスターしていく。そうして確実に第一志望校合格を導いていきます。25年前、それまで25年間当時自分の授業力を自負してきた私は、東進のプロの授業を見せつけられ、生徒のサポートに回る転換を決意。今に至っております。受験生のみんな、いよいよ共通テストまで1カ月を切りました。頑張ろう！

“再び職員の応援に有明会場に。” 2025. 12. 21 (sun)

11月13日に続き、菊川小笠教室の職員・中原アリアン君の総合格闘技大会の応援に、当グループ職員6人で行ってきた。実は、前日アリアン君から連絡があり、脱水症状が出てドクターストップで試合に出れないとのことだったが、アリアン君のセコンドを務めるパウロ先生(43歳、ヘビー級)も大会に出るとのこと、予定通り大会が行われる有明会場に向かった。会場に着くと、ぼったりアリアン君に会った。ドクターストップに気落ちしている表情が見て取れ、応援に来た私たちに大変な気遣いだった。次の試合にがんばろうと活を入れたが、寂しい表情は消えなかった。パウロ先生の試合は、1ランウド1分40秒アームロックで勝利した。2戦2勝0敗、見事だった。毎回のことだが、往復、土井ちゃんの運転で、感謝、感謝である。

“来年度「フリースクール等補助金制度」廃止に思う。” 2025. 12. 18 (wed)

昨日県教委義務教育課の担当者から、県の財政の緊迫状況から来年度の「フリースクール等補助金制度」廃止の旨の連絡を受けた。県の財政の緊迫状況とはいえ、「学びにアクセスしない子どものゼロ」を目指す県教委の本気度の問題である。否、鈴木知事の同問題に対する認識の問題である。不登校は、今後の県を担う子ども達の問題である。正直に言わせてもらえば、補助金廃止に「ゼロ」を目指す本気度が感じられない。

一方で、年間1,300~1,560万円余、計3年間で3,900~4,680万円の助成を提示してその解決を依頼してきている団体がある。その本気度に敬意を示し、計画を作成中である。

“「小さな人間たちの詩」12月5日から9話連続書き上げました。” 2025. 12. 14 (sun)

迷った挙句、書き上げました。複雑な家庭環境に巻き込まれながら、不登校を乗り越えた少女の姿を書き上げました。実際はもっと複雑に絡み合っているながら、言葉少なに黙々と不登校を乗り越えていったんですが、私の表現力不足もあり、個人を特定されないように、そこまで詳細には描き切れませんでした。救われたのは彼女が、彼女がそれを意識したか否かはわかりませんが、気丈夫に自分との間に線を引き、彼女自身がそれを飛び越えてゴタゴタした向こうの世界に足を踏み入れないようにしたことが幸いしました。描きたかったのは、「虐待を受けた者は（カウンセリングを受けない限り）我が子を虐待する」姿と、「安定した家庭が子どもを育てる」姿、「自己のアイデンティティの確立が自己の安定（ひいては不登校を乗り越えること）に繋がる」姿です。

“「小さな人間たちの詩」12月5日から8話連続。” 2025. 12. 12(fri)

過去の相談記録を紐解いていると、次から次へと子どもが目の前に現れてくる。今機の脇に、9話目予定の相談記録が置いてある。複雑な家庭環境に翻弄された中学1年の女子不登校生の記録である。書くか否か考えている。彼女は、本紙12月10日登録の「母親に振り回される少女」よりも複雑な家庭環境に翻弄されている。しかし、そうした中でも必死に自立していこうとした彼女を描くことで、様々な環境で不登校になっている子ども達やその保護者の皆さんがその活路を見出すことができるなら書いていこう、とも思う。でも、事実には忠実に描けば、本人を特定しかねない。忠実に書かなければ、複雑な環境に“翻弄”されながらも、“真に自立”していく姿が描けない。その意味で、それは大変“重い”話になる。しばしお時間を頂きたい。

“「小さな人間たちの詩」の続話、昨日に続き、また書きました。” 2025. 12. 10(wed)

昨日に続き、母親に振り回された「怠業」の少女の話を書きました。そんな境遇の中でも、彼女の真の強さを垣間見た話です。是非お読みください。

“しばらく「小さな人間たちの詩」執筆で失礼しました” 2025. 12. 8(mon)

今回は、特に2015年前後の相談記録を紐解き、4人の子ども達の姿を書きました。拙書にお付き合いください。いつもの言葉です。ほんの一部の子ども達ですが、その子ども達が自立していく姿です。子ども達の状態をしっかりと分析し、対応すれば必ず自立していきます。それを分かって頂きたいために、この詩を書き続けます。

“「カウンセリングとは何か」（東畑開人著）読了その3” 2025. 12. 3(wed)

「カウンセリングとは何か」を再度読み直しながら要約をほぼ完了した。改めてカウンセリングの本質を学び、自身の今後のカウンセリングに活かしていこうと思う。

これまでは主に学齢期の不登校に至った子どもたちのカウンセリングに交流分析や風景構成法を活用してきたが、正直、不登校の子どもたちの心の真相を掴み切れない時もあった。

その中で今回偶然にこの本に出会い、自分の中に落とし込むためもあって、この本を再度読み直しながら要約した。

ただ、この精神分析の自由連想で不登校の子どもたちの心の真相を窺えるかどうか、考えてしまった。本日もスタッフとそのことを話し合った。確かに青年期以上の人達のカウンセリングには、今回学んだカウンセリングの技法は大いに役立つと思う。ただ、まだ自己認識が成熟過程の子どもたちにこの精神分析を活かせるかどうか。すなわち、学齢期の子どもたちが、頭に思い浮かぶことすべてを言葉にして話せるかどうか、私は引っ掛かっている。それは、こちらの技法能力の問題か。

“転移” 2025. 12. 2 (tue)

「カウンセリングとは何か」を再度読み直しながら要約する中で、改めて精神分析（フロイトから始まる学派）からみる「転移」を学んだ。そこで、本HPの「小さな人間たちの詩」に「転移」に登場する女性が私に向けられた「転移」の意味を、この精神分析から改めて考えてみた。勿論、彼女が実の母親を私に映してくる（私に実母をダブらせる）のが転移である。その対応は、私が学んできた交流分析では、彼女のC（子どもの心）が、母親＝私のP {大人の心} に訴えているその姿を、彼女のA（大人の心）で考えるカウンセリングを試みる。それをしようとしたが、その「転移」の話では、50代の彼女のA（大人の心）が成長しておらず、そのカウンセリングに耐えきれない女性の姿を描いた。

これをこの本の精神分析で捉えれば、彼女が50年の月日を経てもなおも満たされていない実母の愛情を求める物語となる。

この歳にして改めて、精神分析、臨床心理学も学ぶ必要性を感じている次第である。

“「カウンセリングとは何か」（東畑開人著）読了その2” 2025. 11. 29 (sat)

下記に昨日書かせて頂いたが、この本を再度読み返し、約4割要約した。要約しながら、これまでの自身のカウンセリングを振り返ると、それなりに謎解きに徹してきたつもりだが、言い訳になるが、対象が子どもたちであったことが多かったこともあったこともあり、ロジックにいささか欠けていた感がある。反省した。偶然に見つけた本であったが、今後の自身のカウンセリングのために、大いに勉強になった。

“「カウンセリングとは何か」（東畑開人著）読了その1” 2025. 11. 28 (fri)

なるほど。カウンセリングの本質を改めて学んだ。本HPの「小さな人間たちの詩」の「転移」で書かせて頂いたが、相談者がカウンセラーに自分の母親を移す「転移」。それは必ず起こる。それによって問題の原因を相談者に謎解く。それはカウンセリングのほんの一部分であるが、カウンセリングをするからには大学院2年間の臨床心理の探究、ないしは公認心理士取得に叶う勉強の必要性を実感した。この本を要約しながら、カウンセリングの奥深さを実感している。

“「カウンセリングとは何か」(東畑開人著)” 2025. 11. 27 (thu)

この本で、臨床心理学、精神分析、医療人類学からのカウンセリングの現場を学んだ。私にとって非常に身になる本だった。この30年の間、交流分析からのカウンセリングだったが、数年から何十年に渡る奥の深いカウンセリングの現場を知り、その有効性を学んだ。これまで薬物治療を嫌い、人間が本来持っている自然治癒力を活用したカウンセリングを追い求めてきたが、その道はある意味で正しかったことも確信した。しかし、その責任の重さも再確認した次第です。これからしっかりとこの本で更にカウンセリング力を身に付けるため、暫くこの本の要約を書き留めようと思う。

“ふじのくに中央日本語学校ランチミーティング” 2025. 11. 26 (wed)

月に1度のランチミーティング(運営会議)。昼食を取りながら、現在の所属している生徒、ひとりひとりの学習状況・日本語の進捗状況を振り返り、今後の指導方針を話し合うミーティングである。日々当校の先生方がこんなに熱心に指導しているにも関わらず、突然経済的理由で退学していく。今月もあった。私たちは勿論、きちんと日常会話の日本語を覚えた上で、仕事の日本語をマスターして就職して欲しい、あるいは、難解な学習用語をマスターして日本の学校に進学して欲しいと、当学校で日本語指導している。しかし、そんなことより家計なのか。虚しく感じる。確かに円安で、日本で働く価値が下がっているのも事実である。当校の職員に報えるべく、新年度の当校の入学条件を考え直している。

“燻製作り体験” 2025. 11. 25 (tue)

昨日24日、朝8時に藤枝駅南ロータリーに集合し、藤枝市助宗の「ひげぐま工房」で燻製作り体験を行った。参加者は、静岡中央高校通信制課程の4年生の女子高校生がひとり。燻製作りは勿論、初めてと言う。桜の原木で行う燻製作り。手作りのベニア製の高さ180cm、幅90cm、奥行き60cmのスモーカーの説明から始まり、本当は桜は魚向き、肉はナラ、コナラがいい、7,80度の温度で長時間燻製するから自然に殺菌される、燻製中は煙の色を見るに白いと燻製中、青い煙は中で燃えて炎が上がっているから、燻製しているものが燃えないようすぐの炎を消す、などと教える。彼女が持参したカシューナッツを桜で燻製した。勿論、ほか私が持参したものを6時間かけて燻製した。

スモーク中は上記の通り煙の色を管理するだけで、やることがないから、自然と彼女と話すことになる。彼女は中学校2年頃、異性の同級生のいじめで学校を休みがちになり、3年生はいわゆる別室登校だったという。可愛い彼女故に、気を引きたかったんだろうか。それがために、高校は静岡中央高校通信制課程になった。しかし、高校1,2年は殆ど学校に行けず、単位は取れなかったもので、現在4年生と言う。まだ卒業後の進路が決まっていない。食べるのが好きだというから、調理師専門学校進学を勧めた。そんな話をしているうちに、彼女が本紙「小さな人間たちの詩」の「中学校3年時皆欠席が、高校は皆出席で卒業」に登

場する彼と同級生だったことが分り、びっくりする。彼女は、次回大晦日の手打ちそば作り体験に参加して単位認定される。

当フォーラムは静岡中央高校通信制課程の学外における学修団体のため、こうした野外体験活動に参加すると、学校の総合学習の単位として認定される。それがため、彼女はこの体験に参加して来た。

“こころ彩～用宗海岸通り～小泉八雲記念館～ボーリング～蓮華寺イルミネーションと、心の洗濯” 2025. 11. 23(sun)

お休みを頂きました。飲み仲間男 2 人女 4 人の計 6 人の気ままなドライブ。静岡市高松の「こころ彩」のこしのある讃岐うどんと、実に美味しい天ぷら。大根のてんぷらの美味しさは絶品。で、あの値段。元庄屋を思わせる建物に、障害を持った人たちが従事する店。皆さんにお勧めする。そして、用宗海岸通り。期待していたたこ焼き屋の閉店に、ガッカリ。仕方なく数件隣の店で、レモンサワー3杯と手羽先・フライドポテトで時間をつぶすも、まだ13時半。じゃあ、先に小泉八雲記念館に行って、その後ボーリングをやるうということになる。小泉八雲記念館に行くと、駐車場が一杯で第3駐車場にまで案内される。えっ！そんなに多くの人々が来てるの？と思いきや、本日小泉八雲に関する講演会があった。都合1時間、小泉八雲を知るもまだ14時半。電話で藤枝ボウルを予約するも16組待ち。3連休の中日。仕方なく焼津の藤枝グランドボウルを予約。一挙に酔いも抜けるも、69のスコア。蓮華寺のイルミネーションテン点灯を待ち、スタバに。スタバの駐車場も混む。テレビで大の里のケガ休場を知り、大の里優勝は消えがっかりする。そうなると、あの試合前相手をにらみつけふてぶてしい豊昇龍の態度に、それこそ一心に頭をつけ突き進む安青錦の優勝を願う。安青錦が琴桜に勝ち、優勝決定戦に。これじゃあ、過去豊昇龍戦3連勝の安青錦の優勝だ！結果、ウクライナ出身の安青錦の優勝に、トランプ大統領が示した和平案を突き放すゼレンスキー・ウクライナ大統領を応援する。最後は、行きつけの「一心」で締めくくる。東進南口校の駐車場（土井ちゃん）→水上（マー君）経由の代行 2,700 円に、二人合わせて 2,400 円（えっ！ホント）の「一心」から帰宅する。

“あす今月初めてのお休みを” 2025. 11. 22(sat)

昨夜当HP「「小さな人間たちの詩」に「不登校により学びにアクセスしない子どもたち」を書き上げたばかりの本日10時に、この5月に対応1か月で授業復帰したにも関わらず、今月8日から再び不登校になってしまった女子中学生と母親と共にお会いした。彼女が再び不登校になった3日後に彼女が描いた絵の心理分析から話が始まった。まさしく「不登校により学びにアクセスしない子どもたち」に書かせて頂いた通り、約1時間余彼女の表情の変化を確認しながら、「学びの目的」を見失っている今の心理状態を解説し、その解決方法をアドバイスした。事後の彼女の表情から、連休明けに今の不登校状態を乗り切る彼女の姿を確信した次第です。

明日は表題通り、今月初のお休みを頂きます。悪しからず。

“「不登校により学びにアクセスしない子どもたち」 2025. 11. 21 (fri)

上記のタイトルで本HPの「小さな人間たちの詩」に掲載しましたので、お読みください。

“「オーレ夜の会」に参加して。ボジョレーヌーボーを味わう。” 2025. 11. 20 (thu)

知人のお誘いを受け、初めて今年解禁初のボジョレーヌーボーを味わった。程よい酸味のワインだった。10杯ほど頂いたか。1日2食の生活を初めて2週間ほど。差し歯の2本が抜けた影響もあり、寄る年波か食欲がなくなってきたが、結構食べた感がある。7割がリピーターと言う。満席の世の人達は、こうして毎年解禁初のボジョレーヌーボーを味わい、仲間との交流を楽しむんだなあ。しかし、リッチなボジョレーヌーボーに飽き足らず、参加した仲間5人ともその後、馴染の居酒屋で飲み直す。やっぱり我々にはこちらが似合う。7000円と600円の違いだった。別段、自虐話ではない。

“「不登校生の学びの確保」について思う。その2” 2025. 11. 19 (wed)

下記の昨日取り上げた「不登校生が学びの場に向かわない」ことをもう少し深堀してみたい。即ち、公的教育機関と民間施設等が連携して「不登校により学びにアクセスできない子共たちをゼロ」にすることを目指して、「不登校生の学びの確保」のために様々な場を用意しても、そもそも多くの不登校生が学びの場に向かっていない（ないしは、向かう気力が無い、否、気がない）ことが「不登校により学びにアクセスしない（できないのではない）」現状の解決を検討すべきだと考える。

30余年不登校の子ども達と対峙してきた経験から、11月5日付けの本紙「不登校のはじまりからおわりまで」で言う、不登校の開始段階から継続段階までは、不登校の子ども達は学ぶことを拒否するがごとく、学ぶ気力も意思も示さない。たとえフリースクールに行ってもトランプやゲーム、漫画、スマホなどに夢中になる時間の方が、勉強をする時間よりはるかに多いのが現状ではないか。当フォーラムでは、当該学校と同じ時間割で学習することが基本なため、3か月程（ひきこもりは6か月から遅くとも1年）で再登校か社会的自立（自分が決めた進路に向かってグループ内の予備校で学習するか、就労支援に向かう）を果たす。

では、そうした現状の解決、即ち、不登校の子ども達が「学びの場に向かう」、あるいは「学びにアクセスする」ためにはどうすればいいか。私たちの長年の経験から、私たちが活用している交流分析で言えば、特に父性と感性を成長させるカウンセリングを行いながら、人間が本来持っている社会性（非認知能力）を育む活動・訓練を行うことである、と考える。勿論、私たちも主張している、不登校・ひきこもりの解消は、まずは「年齢に応じた生活習慣」から始まる。児童・生徒であれば、前述の通り本人とじっくり話し合い、本人の同意の元、当該学校と同じ時間割で学習することから始めるし、学齢期を過ぎた若者は寮生活をしながら、提携する会社に派遣社員として様々な仕事の技量を身に付け、土日に希望する仕事

の体験をしながら本就労していく。勿論、それが私たちの対応開始から始まる場合もあれ、対応1, 2か月後の場合もある。そして、私たちの対応の根幹は、前述の本人の父性と感性を成長させ、人間が本来持っている社会性（非認知能力）を育む活動・訓練であることは言うまでもない。私たちはこのような対応を行っているが、その具体的な指導、活動は、それぞれの機関・団体の特徴を活かしたものであっていいと思う。

ただ、そこで私たちが課題と捉えているのは、そもそも「不登校により公的機関や私たちのような相談機関にアクセスしない」子どもたちが全国で15%以上いる（不登校約30万人のうち4.6万人の割合だが、現在は35万人余の不登校の子ども達がいる）ことである。県内にしたらどれだけいるのだろうか？それは、同紙8月1日に書かせて頂いた、私たちのアウトリーチの課題でもある。特に昨今では情報化社会でありながら、個人情報保護法により、私たちがその15%以上の子ども達の情報を掴んでアプローチ出来ないことである。

そうした不登校の子ども達が、その解消を諦めてひきこもりになっていっているのだろう。それが146万人（2022年度）のひきこもりを生み出し、日本の労働力不足、ひいては外国人労働者の増加に繋がっている。日本語を母語としない子ども達の日本語初期支援、日本語学校も運営する私たちは、多文化共生を否定しているわけではない。

“「不登校生の学びの確保」について思う。その1” 2025. 11. 18(tue)

昨日の県教委・公的教育機関と民間施設等の連携推進事業は、「不登校生の学びの確保」のための事業である。それならば、児童・生徒の全員がタブレットを支給されている現在において、不登校の彼らに学習意欲があれば、それを活用して授業配信すればいいと思う。当グループが現在連携している認定NPO法人イーエデュケーションが海外の貧困のため教育を受けられない子ども達のために、代表が東進の卒業生だったことから、東進のシステムにヒントを得て、DVDに授業を収録して教育を受けられるようにしたという立派な実績がある。

しかし、問題の本質は「不登校生の学びの確保」ではなく、「不登校生が学びの場に向かわない」ことではないか。「学びの多様化学校」や「フリースクール」を用意しても、そこに向かわず、ひきこもる不登校の児童・生徒の多さであると、私は思う。即ち、不登校だけではなく、学習意欲にも欠けひきこもる子どもたちの存在が問題の本質ではないかと考える。

そうであるならば、下記の昨日の日誌に書いた通り、我々が長年やってきた「同世代の仲間たちと群れ集う中で成長する」社会性、非認知能力の育成が、不登校の問題の本質の解決の、少なくとも一端を担うのではないかと思う次第である。

“県教委・令和7年度公的教育機関と民間施設等の連携推進事業 第1回連携協議会に参加して” 2025. 11. 17(mon)

昨年令和6年の県内の不登校生、小学生が5,112名、中学生6,845人で、過去最多を更

新。問題は彼らの殆どが、フリースクールや市町の適応教室との接触もなく「学びの機会」が保障されていない現状（%はメモしなかったが）である。私は今日の会議で発言させて頂いたが、不登校を前提に議論が行われている現状に違和感を感じる。

私は何度となく言ってきたが、人間は社会性を持った動物である。即ち、同世代の仲間たちと群れ集う中で、仲間を知り、自分を知り、共に成長する動物である。その社会性が育まれず、不登校やひきこもりになっている自分に苦しんでいる。その社会性は、非認知能力である。今日の基調講演を行って頂いた常葉大学准教授の太田正義氏も、子ども達のキャンプ活動を行っているようだが、ご存じの通り私も二十歳で会社を興したのも、この子どもたちの社会性、非認知能力の育成が目的であった。

F M島田のラジオ番組や静岡福祉大学のワークショップで語ってきたが、このまま不登校が生まれにくい対策を講じなければ、少子化から今後不登校生の数字は減っていくが、その割合は増えていく。今日も発言させて頂いたが、その対策は生れ落ちてからの幼児教育であると思う。「三つ子魂百まで」通り、3歳頃までの幼児教育。「3歳までは親の元」は誤り。親、特に母親との濃厚な愛着生活のI年を過ごし独り立ちしてから様々な人達と関わり、同世代の子ども達との様々な遊び・活動を通じて、社会性、非認知能力を育てる。「スマホ育児」では、人間は育たない。勿論、その後の子ども園、小学校と、非認知能力のみならず認知能力育成も加わった思春期までの教育が不登校対策と考える

加えて、太田氏からフリースクールは成り立つかとの話があったが、年間100万円の補助金を得たところで、ほぼボランティアで運営している小規模のフリースクールは参加者の費用負担の軽減にはなるが、運営は成り立たない。他に事業を行っているから当該フリースクールを運営しているのが現状ではないかと思う。当フォーラムも然りである。

私にはるか昔の1995年5月の静岡新聞「トークバトル」で言わせて頂いたが、米国のサドベリースクールのように、独自の理念とカリキュラムを持った「チャータースクール」として行政から委託を受ければ成り立つと、グループセッションで提案させて頂いた。自身の理想教育を掲げるのであれば、それに基づいたカリキュラムで指導しその結果を、年度末に指導した子どもを審査・評価することで受け、次年度の委託契約を結ぶ形であれば、私はオルタナティブスクールの存在を認める。きちんとしたカリキュラムのないオルタナティブスクールに何年もの間参加したが、年齢相当の認知能力も非認知能力も育たぬまま、徒に学齢期を過ごしてしまった子ども達を観てきたから思うのである。

“藤枝東高校昭和48年卒業32組の同級会に参加して” 2025. 11. 16 (sun)

42名中半分の21名が出席。今年1月の同校同窓会以来の再開だった。地元藤枝のみならず、京都2名、東京2名、県内磐田・三島・静岡からも参加してくれ、楽しく懐かしいひと時を過ごした。古希を迎え、当時と変わらない人、少しばかり当時の面影が残っている人、当時からは分からないほど変わった人、それはそれで楽しい思い出である。幹事の皆さんのご苦勞に感謝する次第である。昨日の高校サッカー選手権大会静岡予選決勝で藤枝東高が

PK敗退の余韻もあり、2008年の国立競技場での決勝以来の選手権での藤枝東高の雄姿を夢見、サッカー談義にも話が弾んだ。現藤枝東高サッカー部監督の植松氏の父親は、我々と同い年の植松精一・元阪神タイガーズ名手。私の妻と中学校の同級生である。新聞によれば、同監督は目指していた「泥くさいサッカー」が見えてきたという。延長後半終了間際の怒濤の攻撃を言うのか。氏に再び新国立競技場を藤色で埋める日を見たいと願う次第である。二次会にも11名が残る。もう現役を引退し、孫との生活を楽しむ日々。片や、私のようにまだ仕事を続け、事業継承を模索する者もいる。思い出話や今の苦労話は尽きなかった。勿論、三次会は一人で締めくくった。

“M君の記事に触れる” 2025. 11. 15(sat)

本日、ふとしたきっかけで同紙「小さな人間たちの詩」の「この体のために人の心を読む技術を習得しました」のM君が登場したNPO法人ひまわり事業団の2018年12月号会誌に出会った。彼の姿に出会い、ホントに懐かしかった。何年前か前、私と彼の軌跡を伝えるため、私の長男を連れ静岡済生会病院が運営する24時間完全看護のアパートで会って以来である。「元ひまわり事業団事務局長、元青い芝の会静岡副代表」の彼の肩書に、私の軌跡も覚える。本ページで何度となく述べたが、当時から私は「ボランティア」と言う言葉を嫌い、友達であるが故に一緒に車椅子の彼を介助し旅行した。彼の能力を活かすべく、20歳で起業した会社の講師として招き、私の労働論を実践した。その時の話が、「この体のために人の心を読む技術を習得しました」である。今も元気であるだろうか？同じく一緒に彼と交流した当時静岡県立女子大学の愛媛県宇和島出身のMさんのことも思い出す。

“「高1の不登校」に想う” 2025. 11. 14(fri)

いわゆる「小1ギャップ」「中1ギャップ」ではないが、このところ高校1年生の不登校の相談が相次いでいる。その背景を考えるに、一つは学習塾業界の教え方の問題を考える。50年前静岡大学の学生ながら、学習塾を併設する有限会社設立に参画した時、当時県教委にいた母校・藤枝東高時の担任だったN先生に諫められたことを思い出す。すなわち、高校入試においてパターン化された過去問の演習を徹底指導すれば、高校入試で高得点の得られてしまう。しかし、当時から思考力・読解力・表現力を要求される高校の定期試験に対応できない。その時、静岡高校の入試時の得点と数か月後の1学期の中間試験の得点の比較表を見せつけられた。入試で高得点を取った生徒達が、軒並み1学期の中間試験で点数が取れていないのである。N先生はこのことを考えて指導しろと諭された。50年も前の状況と今は変わっていないのか。絶対評価で過ごした自身の学力を相対評価で知らず進学した中学・高校で初めて知った自身の学力の現実。人は集団の中で真ん中より上にいると自認して生活しているが、現実真ん中より下位にいる自分を知った時、その姿を仲間にもさらけ出せずひきこもり、不登校になる。いわゆるパターン化の暗記力に頼る学習ではなく、基礎・基本・概念のしっかりした理解の元、それを活用した課題解決能力を養う教え方の重要さを感じ

る次第である。

“総合格闘技、中原アリアン君の次回対戦が決まる！” 2025. 11. 13 (thu)

9月15日の本稿で書きました、当グループの虹の架け橋菊川小笠教室の職員・中原アリアン君が挑戦する総合格闘技の次回の大会が決まりました。12月21日、東京・晴海の会場で行われます。勿論、休みを取って応援に駆け付けます(昨日、休暇を申請しました！でも、許可するのは自分ですが(-_-;)。自身が卒業した日本語初期支援教室・虹の架け橋菊川小笠教室で後輩たちの日本語指導しながら、総合格闘技家としての自らの夢を追い求める中原アリアン君。私たちは応援します！それ故、所属ジムのTシャツに「ひげぐまグループ」の名を入れさせて頂きました(ごめん、昨日ようやくお金を支払って)。

“「風景構成法」の解釈方法を修正しました！” 2025. 11. 12(wed)

やり切った！約1週間かな？否、正確には5日間かな？過日10月22日から、菊川小笠教室の職員から依頼を受け、20数人の心理分析を行った。勿論、菊川小笠教室の子ども達は日本語を母語としない子ども達で10歳以下の子供たちもいるので、いつもの交流分析の心理テストによる心理分析は適さない。そこで、11個の項目を順に提示し一つの絵を完成してもらう「風景構成法」による心理分析を行った。しかし分析していく中で、5年ほど前私が3冊の風景構成法の分析の本と私の経験からまとめた「風景構成法心理分析マニュアル」に違和感を感じ、途中から心理分析と並行して、同心理分析マニュアルの修正に取り掛かり、先ほど完成した次第である。いや～、それぞれの項目が示す表象の意味を改めてじっくり検証し、この心理分析の奥深さを改めて感じた次第である。そのためにも、自身の価値感に偏りが無いよう様々な著作を読み込む日々。だから、本コーナーでは様々な本のお話が出てくる。下記の「不登校・ひきこもり支援士講座・中級」で、今回修正した「風景構成法心理分析マニュアル」による心理分析の講義を行う。楽しみにお待ちください。

“NPO 法人法人静岡県教育フォーラム認定資格「不登校・ひきこもり解消支援士講座初級」開講します！” 2025. 11. 11(tue)

過去何回か同講座の開講宣言したにも関わらず、コロナ禍で開講延期を余儀なくされました。この間大変嬉しいことながら、様々な方々からの同講開講のご要望も頂きました。ありがとうございました。しかしながら、この私がこれまで対面での同講座の開催を希望していたため、なかなか開催に至りませんでした。そこで過日、私共のグループでその対応を話し合い、同初級第1講を来年1月11日(日)13時から3時間、zoomで開講することに決まりましたので、ここで皆様にお伝え致します。

不登校・ひきこもりの子ども達や青年(壮年?)に対応して30数年。この間に250余名の子ども達や青年のその解消を果たした経験とノウハウを、これまで6年間余を掛け初級・中級・上級講座(6分野の学術領域等を活用)に集大成しました。勿論、専門家のアドバイ

スを頂き、商標登録ないし特許登録する予定です。

私も今年6月に古希を迎え、6年後の76歳で現役引退（会長職就任）を当グループに宣言しましたことから、今後5年間で不登校・ひきこもり解消支援士として、「不登校・ひきこもりを解消できる人材」を育成し、一人でも多くの不登校・ひきこもりを解消し、社会に貢献したいと考えております。

昨日（いや今朝）3時半まで依頼された数名の心理分析を行い、今日も早朝7時過ぎから2件の不登校の相談に対応する状態です。不登校・ひきこもりは必ず解消します。そのノウハウを伝授いたします。是非同講座にご参加下さい。

参照

不登校・ひきこもり解消支援士 初級

同資格はNPO法人静岡県教育フォーラムの認定資格です。

目標：不登校・ひきこもりの素因と対応の知識を習得する

認定条件：①3時間×5回の講座受講、②資格認定試験合格

講座内容

- 1回目－不登校と引きこもりの直近の概念とその心性、カウンセリングの基本
- 2回目－特講－2001年の学習指導要領改訂が生んだ不登校
- 3回目－交流分析による心理分析の基本（父性・母性・知性・感性・順応性）
- 4回目－心理分析から不登校解消に向けて指針と実例
- 5回目－カウンセリング特講 まとめ、資格認定試験

受講料 一般 53,000円 日本インターネットスクール協会（JISO）会員 43,000円

※認定試験料別途（5,000円）※認定証書発行手数料別途（1,000円）

“あの連続児童殺事件の犯人「酒鬼薔薇聖斗」の両親が書いた『『少年A』この子を生んで…』を読了して” 2025. 11. 7(fri)

Aの精神鑑定主文は、「家庭における親密体験の乏しさを背景に、弟いじめと体罰との悪循環の下で『虐待者にして被虐待者』としての幼時を送」と認定した。しかし、母親は結婚して2年後にやっとできたAだけに、次男が生まれるまでは夫婦してAにベッタリ過ぎたかも、と回顧している。一方で、三男が生まれた上に小児喘息を患っていたので、Aや次男をあまりかまっていられなかった、と反省もする。ただAだけ格別に厳しく躰けたという記憶も、Aが母親を「まかいの大ま王」と称し、ひっさつわざの（布団たたきでの）「百たたき」と書いたAの作文のように、Aを布団たたきで叩いた記憶はない、と明言する。ただ、寝坊しているAに、「布団を干すで、起きよ」と言って布団を剥ぎ、窓を開けて布団たたきで布団をパンパン叩きながら干していたことは述べている。また、小学校3年生の時、兄弟3人が三つ巴の取っ組み合いの喧嘩をし、帰宅した父親が長男Aに手を挙げ怒鳴りつけた。するとAは、急に虚ろな目になり、「(前の家の) 団地に帰りたい」とうわ言のように

喋り、驚いた母親は駆け寄り、「A、大丈夫やから」と、震えているAを暫くじっと抱いていた、と述べている。その後父親はAを叩く真似をしても、一度も手は上げなかった、という。小学校2年生に上がった時、Aの希望で少林寺拳法を習い始めた。母親はAに限らず子供たちに『拳児』の主人公のように肉体的にも精神的にも強くなって欲しい、弱い者いじめしない他人に優しくできる人間になってほしい、と古本屋で買い揃えた全20巻のその漫画を子供部屋にさり気なく並べて置いた、という。母親はこの漫画の影響もあったと思っている。Aは少し気が弱く、内向的な性格で、いつも大人しく、いつもふにゃつとして人の後についてくる子であり、妙に神経質で繊細だが、恥をかくことには無頓着だった、と回顧する。余りにも違う鑑定主文のAの姿に、夫婦とも子どもの親であることの自信が崩れてしまった、と述べている。

続く精神鑑定主文は、「思春期発来の前後のある時点で、動物の嗜虐的殺害が性的興奮と結合した（性的サディズム、山下注）」。

母親は、Aが女の子に関心が持てなかったのは、私に來する反発も多分にあったのではないかと反省する。そして、「これに続く一時期、殺人幻想の白昼夢にふけり、現実の殺人の遂行を宿命的に不可避であると思ひ込むようになった。」と説く。結果、精神や脳に異常はない。「あの子は一体、何者なのでしょうかね？」と母親はつぶやく。そして、「私はAの親です。人間としてAの行為を裁くことがどうしてもできません。親としてでしか、Aを見ることがどうしてもできません。Aの行為はやはり、私たち親に責任があります。」「あれだけ側にいながら、事件を引き起こしているとは、想像もつきませんでした。愚かな親ですが、Aが逮捕されて会えない間じゅうずっと、最後までAを信じてやりたかった。子供にそんな酷いことが出来るわけがない。いい子ではないけど、百パーセント信頼し、愛していた息子を疑うことは、どうしてもできませんでした。」「私たちはAを止めることが、なぜできなかったのか。悔やんでも悔やみきれません。」「私は息子を自慢にはできませんでした。やはり愛情は多く、深く持っていました。」Aは自分が愛されていないと思ひ込み、犯行へと突っ走って行くと、マスコミなどでよく専門家の方が指摘する。「あの子に私の気持ち、親としての愛情をどうやって伝えれば、うまく伝わったのでしょうか？私は、あまりにも不器用な母親だったのかもしれない。そしてAも……。それは最後まで悔やまれてなりません」と括る。親として最後まで子どもを信ずる姿。「この子を生んで……」の「……」に表れている。

Aが書いた作文「懲役13年」は、「FBI心理分析官」（ロバート・K・レスラー著早川書房）、「診断名サイコパス」（ロバート・D・ヘア著早川書房）、映画「プレデター」などから文章が引用されている。他、彼がヒットラーの「わが闘争」や、サダム・フセインについての本を読み、ホラーのビデオも見ていたという。彼の思考過程が想像される。

“あの神戸連続児童殺事件の犯人「酒鬼薔薇聖斗」の両親が書いた『少年A』この子を生んで…」を半分まで読んで” 2025. 11. 6 (thu)

「さあ ゲームの始まりです 愚鈍な警察諸君 ボクを止めてみたまえ ボクは殺しが

愉快でたまらない 酒鬼薔薇聖斗」—1997年5月27日、ナチスの鉤十字もどきのマークと共に記された「挑戦状」(6月に入り神戸新聞社に送り届けられた)と共に、土師淳君の遺体の頭部がAの在籍していた中学校の正門に発見された。そのAの両親の手記である。

土師淳君は、Aの下の子(A家の三男)の友達でよくAの家に遊びに来ていて、淳君の母親はA君の母親と同じ卓球クラブで親しい間柄であった。淳君が行方不明になった同年5月24日から毎日Aの両親も交代で、淳君の友達である三男を連れ、淳君を探し回っていた。当時不登校だったAは、そんな家族の様子を普段通り見ていた。Aの母親は事件当日Aと一緒に児童相談所で行っており、昼のニュースでその事件を知りに衝撃を受け、家にいる下の2人の息子たちに「戸締りをちゃんとするよう」電話をしている。母親もまさかその事件の犯人が隣にいる長男Aとは知らず、その残忍性を近所の人達と話していたという。そして、1か月余後の6月28日朝7時過ぎ、突然の3人の警察官の訪問を受けAが署に連れて行かれ、事情聴取後逮捕される。母親もAとは別の署に事情聴取のため連れて行かれた。

再三に渡って、土師淳君のご両親のみならず、Aがその前に起こした連続女子児童殺傷事件の被害者のご両親に向けて、謝罪の言葉を述べている。繊細で優しい子と信じていた長男Aの犯行だと信じられず、本人の口から犯行を聞きたくとも、本人が面会を拒否し続け、ようやく会えても罵倒され、それも叶わなかった。「お前たちが交尾してできた化け物の責任を取れ」との葉書も届き、マスコミの濁流にも巻き込まれる。

しかし、事実としてのこの痛ましい犯罪に対して死して応えること(それによって残された2人の次男達はその責務を負うこと)より、様々な誹謗中傷を受けながらも、両親はAと一緒に生きて死ぬまで贖罪を果たすことを選んだ。勿論、この本の印税は被害に遭われた方々への補償になると聞き、購入した次第である。しかし、もう40歳を超しこの日本で生活するA、否、実名(名を変えているであろうが)で生活している彼はどう思っているだろうか。

“「不登校のはじまりからおわりまで」(児童精神科医・齋藤万比古監修)” 2025. 11. 5(wed)

今年3月に出された同本を、私の経験を踏まえて順に検証していきたい。

第1章 不登校とは

① 不登校の「兆候段階」

本人の内面でさまざまなつらい葛藤がある。それを外部に知らせるサインとして、頭痛、腹痛、だるいなどの身体症状を訴える、不安や緊張が高まって落ち着かない、気分が落ち込み、なにもする気になれない抑うつ気分もサインだといえる。

私は交流分析で考えるに、AC(順応性)が異常に高い、即ち、自己否定感が異常に強く、周囲の視線、即ち、自分がどう思われているかを異常に気になる。FC(感性)が低い、即ち、自分の感情を表に出せず内に押し殺す。そのため、人間関係を築けない。CP(父性)が異常に低い、即ち、自尊感情も低く、年齢相応の行動、知識・技量を身に付ける、働いて生活する、同世代の仲間と群れ集うことに自分の行動を律することがで

きずにひきこもる。人との関わりがないためにNP（母性）も低くなるが、弟や妹がいたり、ペットを飼っている場合は、NPが高いこともある。A（知性）が低いために学力不振が不登校の素因にもなるが、逆にAが高いことが思い込みをもたらし、不登校の素因にもなる。従って、NPとAが不登校の素因になるのは個々によると捉えている。これが上記の「兆候段階」の素因と考える。

② 不登校の「開始段階」

いよいよ連続して登校しなくなる時期である。子どもの心には、しばしば激しい葛藤が起こり、不安や焦り、イライラなどの情緒的な動揺や気分の落ち込みが目立つようになる。

これには近年は、6月26日付けの本紙に書かせて頂いた「主役だった自分が、実は脇役だっことに気付いたショック」があると思う。詳しくは、6月26日付けの本紙をお読み頂きたい。

③ 不登校の「継続段階」

私とその昔、「亜盛期」と述べていた時期である。

精神的な不安定さがおさまらず、不登校に腹を据えたように見られる時期である。本人も家族も子どもの不登校を受け入れると、このような段階になる。しかし、外出には強い恐れを抱き、自室で一日中ゲームやSNSに興ずる。

一方、過大な要求をし、拒まると暴力的な言動したり、不安、抑うつ、脅迫などが表れることもある。それらは、子どもが不登校の状態から回復に向けて取り組み、強い葛藤を抱いていると理解する。

この時期の子どもは、それぞれのタイミングで社会情勢や社会生活への関心を示し始める。

④ 社会との「再開段階」

少しずつ学校や社会との接点を求めるようになる。勿論、この段階に至る時間は、子どもによって違う。

ただ私の経験では、不登校になった早い段階で、その子の心理状態を分析し、適切に対応すれば、早くて2カ月、3か月から6か月でこの段階に至る。

本書では、まずは子どもが今、どの段階にあるか、その段階によって支援方法を変えていく工夫が必要と説いている。

不登校の子どものうち7割は将来普通の社会生活を送れるようになり、2割は不安定ながら社会生活に参加できるようになると、本書では述べているが、同感である。

ゴールは自分らしい生き方を見つけること、これも同感である。

しかし、氏は不登校を乗り越えたゴールが「学校への復帰」や「将来の就労」だと思っている人が多いが、たとえそれが、不登校を乗り越える途中段階で留まったとしても、それが精一杯なら、そこで生きることも大切な子どもの人生と述べているが、私は何度となく述べてきたように、人間は社会性を持った動物故に、同世代の仲間たちと群れ集

う中で、その社会性を育みむことによって、自分らしい生き方を見つけていくものと信じている。

*2章以降は、私の経験を踏まえて検証した後に、必要に応じてここで述べさせていただきます。と言いますのは、この本と一緒に、あの神戸連続児童殺事件の犯人「酒鬼薔薇聖斗」の両親が書いた『『少年A』この子を生んで…』も購入し、そちらもこの後読みたいからです。悪しからず。

“通信制高校が進学の選択肢になっている昨今の現状に思う” 2025. 11. 4(tue)

ここでは本音で話したい。約 30 年間不登校の子ども達と対峙してきた私は、「通信制高校」が進学先の選択肢になっている昨今の現状に甚だ疑問に思う。文部科学省の「2025 年度学校基本調査（速報値）」によると、通信制高校の在籍者数は 10 年連続で増加している。その結果、今年も、過去最多の 30 万 5221 人を記録した。なお、高校生全体に占める割合は 9.6%で、約 10 人に 1 人が通信制高校の生徒である。一方で、高校生全体の人数はこの 10 年で約 32 万人減っている。全日制は約 43 万人減、定時制は約 2 万人減と、通信制以外は減少傾向である。また、通信制高校の学校数も増えており、25 年 4 月には公立 4 校、私立 26 校が新設された。これまで認可校のなかった群馬県や富山県、徳島県にも認可校が新設されたため、全エリアに通信制高校が設置されている。元々「通信制高校」は、病気で高校に通えない、あるいは、働きながら高校卒業資格を取りたい子ども達がやむなく進学する高校であった。私共で言えば、日本語を母語としない子ども達の進学先でもある。ところが、近年は不登校の子ども達の進学先になっている。下記の 11 月 1 日の日誌に書かせて頂いたが、私には通信制高校の募集担当の先生方が、「学びの多様化」の名の元にどうして学校に通えない子ども達に自校進学を勧めるのか分からない。そもそも学校に通えない生徒である。そうした子ども達に、学校に通えない状態をそのままにして自校の通信制高校進学を勧めるのが分からない。通信制高校は自主学習が前提であり、通学する高校生より学習姿勢が要求される。当グループの特定非営利活動法人静岡県教育フォーラムは、現在静岡県立静岡中央高校通信制課程の学外における学修団体として、運営する虹の掛け橋菊川小笠教室とふじのくに中央日本語学校の日本語初期支援のボランティアや、不登校の子ども達の野外体験活動のボランティアに参加する静岡中央高校通信課程の生徒が単位認定される活動を行っている。そもそもそうした活動は、10 数年前当時当該通信制課程の生徒の 8 割が、不登校状態が解消されないまま当該高校を卒業できないという状態を解消すべく始まった経緯がある。お隣の神奈川県でもそうした状態が起これ、人と関わる同様な活動を単位認定したことから卒業が促進されたことから、こうした制度が静岡県でも始まった。今年も 4 名の静岡中央高校通信制課程の子ども達が同活動に参加している。参加した高校生の心理分析からも、明らかに不登校状態解消の成果は出ている。勿論、ある通信制高校の先生方の努力で不登校状態解消が行われていることも知っているが（故に相談に来れば、唯一その高校進学は勧める）、すべて通信制高校が生徒達にそうしたカウンセリングを行っているとは限らない。

現に卒業できないまま退学していく多くの子ども達を知っている。加えて、東進の公開模試を受験してくる通信制高校の生徒達の学力も知らされる。

私が問題提起しているのは、通信制高校が進学先の選択肢に入っていることではなく、不登校状態をそのままにして、「学びの多様化」の名の元に通信制高校進学を勧める募集担当の姿勢である。約 10 人に 1 人が通信制高校の生徒であるシェア率は、大変な市場である。商業ベースではなく、子ども達の不登校解消ベースで考えて頂きたい。

“学力” 2025. 11. 2(sun)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

“島田市「合同相談会」(県教委主催)に参加して” 2025. 11. 1(sat)

朝 10 時から 15 時まで、お昼休憩を挟んで 4 時間、「不登校ひきこもり解消プログラム」を謳うパンフレットを掲げた、NPO 法人静岡県教育フォーラムのブースで待つも、一件も相談も無し。片や、通信制高校のブースには、明らかに不登校の子と共に説明を聞く親子が 20 組程度賑わう。確かに「学びの多様化」で通信制高校が進学の選択肢に加わった昨今に異議を申す訳ではないが、「人と関わりづらい」状況をそのままにして、「学びの多様化」の名の元に通信制高校を進学の選択肢に紹介していいものかは、疑問に感じる。かの N 高も S 高、R 高を設立、大盛況である。ただ結果、私はどれだけの割合で通信制高校卒業に至ったかを知りたい。私の元には約半分が卒業できなく、ひきこもってってくる。だから我々は、その「人と関わりづらい」心理的な素因からの解消を行うのである。しかし、今日参加している様々な団体は、聞くに「不登校、ひきこもり」の状態を前提に対応している。否、我々は過去最高の 35 万 3970 人に達した小中学生の一人でも多く、その心理的素因からの解消を行う。

“「生き直し」も読み切る” 2025. 10. 31(fri)

松井久子著「つがいをいきる」の仙崎理一郎のモデルとなった、松井久子さんの夫・子安宣邦・大阪大学名誉教授が書いた本である。2022 年に、89 歳の子安氏と 76 歳の松井さんが再婚。同結婚を夫の立場から書いたのは本書で、妻の立場から書いたのが「つがいをいきる」である。小説である「つがいをいきる」に対し、本書は元大学教授だけに実名で書かれている。元日本思想史学会会長だけに、老齡の結婚を「生き直し」と表現する。蔵書に埋もれた 4 階建ての自宅を捨て、元大学教授の肩書も捨て、“裸”の生身の一人の男を、過去の名声も捨て同じく“裸”の生身の一人の女が支えたいと、同居、結果として結婚に踏み切った、と私は解釈した。だから、下記の 10 月 28 日の日誌に書かせて頂いた、「肌が触れ合うだけで安心感を得られる夫婦愛」なのかと、合点がいった。「おいらくの恋」などと、あざけるものではない。隣のリビングで今、テレビに興ずる同い年の妻を見ながら、夫婦の在り方を考えさせられた本でした。

“「風景構成法」の心理分析をする” 2025. 10. 31(fri)

先週と今週の水曜日、虹の架け橋・菊川小笠教室の子ども達計 14 名の「風景構成法」による心理分析を行った。「風景構成法」は、1969 年、精神科医・中井久夫氏によって考案されたアートセラピーの一つである。川や山など順番に 11 のアイテムを画用紙に描き、1 枚の絵を完成させ、その心理内界を分析するものである。私が普段行う交流分析の心理分析は、53 問の質問に「はい」「いいえ」で答えた結果を分析するものだが、東洋人向けの質問の故日本語を母語としない子ども達には適さないし、11 歳以下の子ども達は対象ではない。そのために、虹の架け橋・菊川小笠教室の子ども達の心理分析には、この「風景構成法」を用いる。結果、いつも思うが、絵には不思議なくらいにその子の精神・心理内界が描かれる。絵を描くことは、問いに考えて答える形式よりも、より自由度があることがそうさせるのかもしれない。それだけにその心理分析には時間を要する。一人の分析には、最低でも 30 分から 1 時間は要する。交流分析もそうだが、事前に成育歴など情報を得ることなしに、心理テストの結果や描いた絵だけを元に分析する。先入観を入れないためである。分析の結果を成育歴などで確かめる。よってその私の分析は、その子に普段接している当教室の職員には「なるほど」「だからあのような行動するのか」と納得する内容のようである。数個の書籍や論文で独学で学んで編み出したこの分析方法も、後世に受け継ぐべく「不登校・ひきこもり解消支援士」講座のテキストに編集中である。

“「別れを告げない」(ハン・ガン著)” 2025. 10. 29(wed)

約 9 万人の島民が虐殺された「済州島 4・3 事件」の題材にしたハン・ガン氏の長編小説を読み切った。「光州事件」を扱った「少年が来る」に続き「哀悼を終わらせない」決意で書き上げたと言う、ノーベル賞（2024 年）作家の意欲作だ。2009 年に交流合宿で初めて訪れた済州島だったが、こんな痛ましい歴史があるとは思わなかった。今も続くガサ地区もそうだが、まさにジェノサイドである。ハン・ガン氏は、「このような人間の本性について問いかけることをやめずにいたい」と吐露したと言う。合間に下記の「つがいをいきる」を挟んだが、つい彼女の表現力のにめり込んでしまった。

“「つがいをいきる」” 2025. 10. 28(tue)

89 歳の元大学教授の夫と 76 歳の元映画監督の妻との結婚。同居していた夫の一人娘の一言、「お父さんがいざ入院とか、手術となった時、正式な妻になっておかないと、会うこともできないのいよ。それでいいの？」で、婚姻届けを出すことになる。肌が触れ合うだけで安心感を得られる夫婦愛。6 年前に同じく元大学教授の妻に先立たれた夫の最後を看取りたいとの思いで、40 年振りの再婚を決意する妻。帯に「偽りでも、我慢でも、諦めでもない、人生の最終章に見つけた尽日の夫婦愛。互いに『個』として認め合い、労りあい、支え合うことだ。」と。しかし、台所を共にした結婚を推した娘家族は別居。結果、4 階建ての

広すぎる 2 世代住宅から 2 人だけのマンションに移ることを決意する。今の家族の姿も見事に表現した小説と想う。我が家も古希を迎えた夫婦だけの住まい。それでいい。

“「きくがわ高校生まちづくりスクール 2025」のプレゼンに参加して” 2025. 10. 26 (sun)

8 月 20 日、菊川市市民協働センターの笠原所長から、4 人の高校生からの「不登校生について」の取材依頼を受け、約 2 時間面談した。現在の子ども達の不登校に至る心理的な素因について詳しくお話しさせて頂いた。その時私は、人間は社会性を持った動物故に、人と関わらず苦しみ不登校になる子ども達に対し、人と関わることでそれを乗り越える術を高校生に説いた。その高校生が 9 月 23 日、数人の不登校の子ども達に寄り添い、実践した。素晴らしかった。その 4 人の高校生たちも、8 月 20 日に採った心理テストから自身も不登校の経験者であったことは分かっていた。しかし、自身の経験から「不登校」と言う地域の課題に挑んだ姿勢も共感した。9 月のイベントで、僅か数時間で不登校の子ども達の心を開いた体験にも感動した。4 人のうち 2 人が 2 年連続同じテーマで挑んだことも嬉しかった。これも「ゆとりの教育」から「探究学習」に大転換を果たした教育の成果なのか。

“「心の仕組み」” 2025. 10. 25 (sat)

文庫本で「上」だけで 564 ページの大作。心とは何か。即ち、脳は、いったい何をしているか？そもそも心はどうやって生まれてきたのか？われわれの祖先が狩猟採集生活のなかで直面した様々な問題—物、動物、他の人間を理解し、優位に立つために要求された課題—を解決するなかで、自然淘汰によって心は「設計」されてた。心と脳の第一人者、71 歳のスティーブン・ピンカー・現ハーバード大学心理学研究室教授が「進化心理学」という観点から、未だ謎に満ちた心の世界に鋭く切り込む（本の帯から）。「最後のひと」で空っぽになった頭を満たすために、再び読み始めた本。冒頭数ページを何回か繰り返し読んだが、なかなか頭に入ってこない。それで、再び松井久子氏の本、「つがいをいきる」を注文した。90 歳と 77 歳の新婚記。偽りでも、我慢でも、諦めでもない、人生の最終章にみつけた真実の夫婦愛を描いた本という。もう、哲学思考より現実論思考かな。

“「最後のひと」も一気に読み終える” 2025. 10. 24 (fri)

「疼く人」に続く、5 年後 75 歳になった唐沢燿子と 86 歳の哲学者・元教授との恋の話。一気に 3 分の 2 程を読んだら、哲学者先生の、燿子と出会いの直前まで 30 年に渡る教え子との不倫が暴露される。一挙に興ざめした。4 年前亡くなった、先に学者になった妻をサポートしてきた、同じく研究者の哲学者・元教授の不倫。だから、86 歳になっても衰えることのない恋心だったんだ。納得した。しかし、燿子、女性は違うのか。いくつになっても愛に疼く。否、人間の性に違いはないと思う。

“「疼くひと」一気に読み終える” 2025. 10. 21 (tue)

私と同じ古稀を迎えた女性と、15歳年下の既婚者の男性（その女性は別れの後知ったのだが）との恋（性愛？）の物語。7年前、今は無き「金谷町立五和中学校同窓会の」代表幹事を拝命し同窓会を企画した時、余興の参加者アンケートに「老いらくの恋に胸キュンした人はだれ？」という項目を入れ、男女2人を選んだことがあった。余興として大変盛り上がったが（と、企画した私達はそう思ったが）、「余興」ではなかったかもしれないと、ふと思った。物語は、その男性は別れを告げた数カ月後不慮の事故で亡くなる。ある意味で「タブー」に切り込んだ物語だが、今に生きる（いや、本来の）人間の姿なんだろう。続編「最後のひと」は、その女性の更に5年後75歳の恋を描いた物語らしい。ついアマゾンで注文してしまった……。このところ夫婦別姓、同性婚が話題になっており、たまたま「人はなぜ結婚するのか」（筒井淳也著、中公新書）を読んでいたもので、同書の新聞の広告について買ってしまった本だった。拙著「小さな人間たちの詩」どころではないかも。「現代の大人たちの詩」も見つめなくては。

“「蜻蛉の夏」読み終える” 2025. 10. 20(mon)

単行本で603ページに渡る大長編小説を5日間で読み切った。織田信長が天下統一へ向けて着々と歩みを進めていた元亀元（1570）年の「姉川の戦い」。織田・徳川の連合軍が、浅井・朝倉の連合軍を打ち破り、織田信長と本願寺勢力（一向一揆）との10年に渡る戦いが始まり、京の街でこれまで交わることがなかった「止観の道士」たちの運命が交錯する。現実と幻想の狭間で揺れる自己矛盾、その道士という生き方に喘ぎながらも、厳しい修行の末に彼らが得た止観の力は、その後の織田家との戦いに大きな影響を与えていく（本の帯から引用）。最後は本能寺の変で信長共々本能寺を焼き切るために、自らの死と引き換えに己の能力を使い果たす道士たちの物語。史実と絡め壮大な物語で、5日間没頭した次第です。

“再び革細工「HIRAKU」に” 2025. 10. 13(mon)

11日の土曜日、夏の交流合宿での体験活動でこのところお世話になっています、小淵沢の革細工「HIRAKU」と、南八ヶ岳のBakery「TRUFFLE」に行ってきました。4人のエスティマでの旅。お二人に運転をお願いし、南部道の駅のB級品ブドウの盛り合わせ（シャインマスカットもあり4房程で1680円の安さ）をつまみに、朝から****三昧。楽しく、しかもゆったりと行かせて頂きました。**ちゃん、***ちゃん、本当に運転ありがとうございました。***だけの夕食では、お礼にはならなかったね。ごめん。

今回は革細工はせず、ひたすら****三昧。まさに至福の時間。おまけに、「HIRAKU」のたくと氏お勧めの、同じく小淵沢スパティオの「Joshua Tree」のメキシコ料理の昼食は、すごくおいしかったです。量も多くお腹がいっぱい。しかし、お腹が苦しいと言いながら、「TRUFFLE」のパンも2個も食べてしまう美味しさ。こんなに山麓の「TRUFFLE」を尋ねてくる車に驚きました。「つくば」「富士山」「品川」・・・ナンバープレートがすごい。聞くに、新宿から移転してきたと。15,6の若いスタッフが次々に焼き上げ、

次々に売れていく。広い敷地にゆったりとした工房兼売店に、森林を楽しむ別棟のガラス張りのカフェも。

同行した 21 歳の若者の相談も、じっくり話し合いができ、よかったです。時々小雨も混じりましたが、初秋の素晴らしい旅でした。

“自分の夢を追う子ども達に想う” 2025. 10. 9 (thu)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

“2024 年度決算を分析して” 2025. 10. 7 (tue)

午前 2 時過ぎ。もうこんな時間か。ここ数日、当グループの 2024 年度決算の詳細な分析を自分なりに行った。こんなことをこのページで述べることではないが、結論は東進衛星予備校藤枝駅南口校の事業拡大とオーレ 1192 ビル事業のてこ入れである。そのためには、東進衛星予備校藤枝駅南口校の事業拡大に向けての新たな人材の確保と、オーレ 1192 ビルのロボット教室と不登校・ひきこもり事業、manafull (母語による教科指導) 等、現事業の拡大と新たな事業の企画・運営のための、こちらも新たな人材の確保であると思う。

10 月 5 日の静岡新聞「大自在」に、橋本龍太郎元首相の言葉が掲載されていた。リーダーの資質を問われ、氏曰く「自分の夢に自分自身が酔えること。相手に自分の夢を語り、相手を巻き込んでしまう能力」と答えた。おこがましいが、かつての自分自身を想う。まさにそんな能力を持った人材が欲しい。

“10 月 1 日に想う” 2025. 10. 3 (fri)

今から 50 年前の 1975 年 10 月 1 日、当時静岡大学の学生ながら有限会社設立参画にし、法人化した日である。事業を興すのであれば、法学専攻の私故、法人化して責任を持って行うべきだとの助言と出資を得て、有限会社設立に参画した。当時、猫の杓子も喫茶店でインベーダーゲームに没頭する若者たちを憂いで、サバイバル的な遊びを教える塾を構想した。

4 人の姉の中の末っ子の長男の私に、余計のお世話だが、近所のマタギのおじいちゃんが「この子は女々しくなる (差別用語で失礼)」と言い、私に任せてくれと私の両親に願い出て来た。翌日から、当時幼稚園から帰る私を駅で待ち伏せし、そのまま山に連れて行かれた。そして、食べられるキノコの見分け方や、生木を使って皮を傷つけないで野兔を捕まえるやり方、ケガをした場合などの薬草の知識、拳銃の果てはマムシの毒抜きに、今ではれっきとした銃刀法違反である空気銃の製作まで伝授してくれた。そんなことが、そのおじいちゃんが亡くなる、私が小学 4 生になるまで続いた。

その経験と大持ち分 (400 万円の有限会社のうち 200 万円の持ち分) のアメリカ人の軍隊経験を元に、月 1 回の活動を基本に最終的にナイフ一丁で生活できる、3 年間のフォックスファイヤークラブ (年を経るごとに 2 泊 3 日から 2 週間のキャンプでその技量を審査) のプログラムを創り上げ、10 月 1 日の有限会社設立となった。静岡市小鹿にあった元旅館

(確か1階2室、2階大広間を入れて3室の建物で、現在はない)を借り、サバイバル的な遊びを教える塾の運営費を補うため、学習塾を併設してスタートした。

それから2年間、法学生でありながら毎日理想の教育の実践を議論し、会社を運営していたことを思い出す。朝日新聞(別の活動で取材されていた同紙記者が応援してくれた)を始めマスコミに注目され、約半年の間赤字経営の会社が復活した。僅か50名程の会員が一挙に400名超に達したのである。しかし、指導するリーダーの数が追いつかず、活動でケガ人が出始めた。遂に合宿で当時小6の女の子が前歯を折る事故が発生したことを機に、私は会員募集停止を取締役会で申し出た。勿論、それまでの赤字回復のため、却下された。しかし、他の役員の不純行動に不信感を抱いたことも加わり、設立から2年後の7月、私は取締役辞任を通知し、住み込んでいた会社を出た。

当然にその後会員は激減し、私は背任行為と訴えられようとなったが、静岡大学の先生方が私を擁護して下さり、訴訟に至らなかった。その会社は1年後、解散した。その時、丁度大学卒業学年となっており、叔父の会社社長(後の旧金谷町長)の助言もあり、営業を勉強するためもあり、住宅メーカーの営業職に就いた。しかし、夢は捨てられず、入社時に豪語した「3年で36棟(結果、35棟だったかもしれない)契約」して退社し、再び学習塾を興して、現在に至る。

“渴愛” 2025. 10. 1 (wed)

「おぢ」たちから総額1億5千万円をだまし取り、ホストに貢いだ「頂き女子りりちゃん」こと、渡邊真衣受刑囚の話である。丁度当HP「小さな人間たちの詩」の「Yさんの場合」を書き上げたばかりで、一気に読み込んでしまった。共に、母親への「渴愛」である。しかし、Yさんの場合は父親や祖母、叔母の根気強い対応のお陰で、通信制高校進学を果たした。しかし、渡邊真衣受刑囚は、懲役8年の刑を受け、服役中である。彼女は、自分の行為が「詐欺」だとうやく理解したが、被害者が受けた苦しみについては全く理解しておらず、「おぢ」たちから自分の体と引き換えに金銭を「頂くこと」は当然のことであり、謝罪や贖罪はこればかりもなかった。父親から受けた性的虐待、それを見ながら何もしない母親。それがホストに貢ぐことに自分の存在感を覚え、貢ぐために「おぢ」たちから桁違いのお金を頂く。勿論、Yさんの場合と比較するものではない。でも、共に求めるのは、拙著「小さな人間たちの詩・実父からの成人式のお祝いのライン」に出てくる、「羊水に浸る愛」である、と思う。

“島根県知夫里島の zoom による「ハウスマスター座談会」に参加して” 2025. 9. 28 (sat)

知夫里島は、島根県隠岐の島群島の1つの島である。人口500数十人。牛が600頭と、人口を上回る。狸に至っては2000頭と、自然豊かな島である。その島にある知夫村立小中学校は、小学生12名、中学生5名。中学生のうち4名は県外の留学生である。ハウスマスターとは、国内留学生が住む「はぐくみ寮」のスタッフである。来年度少なくともハウスマス

ターの2名が諸事情により退職することから、ハウスマスター募集のため、現役ハウスマスターが参加しての座談会である。同企画は、8月下旬に参加した隠岐の島の小中高校視察で知った。

私が今関わっている青年に紹介したく、今月は5日と26日の2回行われ、夜1時間余の座談会に2回とも参加させて頂いた。嬉しかったのは、参加した人たちの離島教育・山村教育に対する熱意の高さである。皆さん、数人だけの学校の教育に関心が高く、本物の教育を目指してそれを実現すべく働く場を求めている。何もこんな離島や山村での教師を目指さなくても、都会や市街地の学校の教師に就けば、安定した生活を確保できる。しかし、その座談会に参加した人たちは、安定した生活より自身が持つ教育の実現に燃えていた。20歳の自分を思い出した。まだまだ日本の教育は見捨てられない。教育の希望の光は、まだまだ輝いている。

“古希を迎えた自分に思う。” 2025.9.21 (sun)

下記の当グループのスタッフのアリアン君の試合の応援に行くときも、スタッフの運転で大阪まで行かせて頂いた。当誌の「小さな人間たちの詩」を読み返し、表現の誤字を修正しながら思うに、正直古希を迎えた自分の行動力の衰えを感じざるを得ない。薬で抑えている糖尿病の影響か、足の浮腫みなのか、右足の動きの鈍さを時々感じる。勿論、まだまだ車の運転に支障は感じない。起業して50年、これまで培ったものを後世に引き渡すべく、「不登校・ひきこもり支援士講座」の完成を日々目指している。しかし、生身の子ども達を扱うもの。過去概念や理論に捉われてはいけない。目の前の子ども達を観て、分析し、その解決の方法を模索し、解決していかなければならない。ただ「小さな人間たちの詩」を読み返す中で、何千年とDNAとして引き継がれた人間の持つ心理の原則があることも知った。このところ、交流分析のみならずアドラー心理学、愛着アプローチに加え、桑島隆二・静岡英和学院大学講師の著作に、失礼ながら同志を得た想いです。日々思索は続く。

“大阪で行われた総合格闘技の大会の応援に出かける。” 2025.9.15 (mon)

昨日、菊川小笠教室の職員・中原アリアン君が挑戦する総合格闘技の大会に応援に行ってきました。朝6時半、職員2人と一緒に送迎車のエスティマで出発（勿論、運転は私でなく職員の土井ちゃんです）。途中2回ほど休憩し、大阪の豊中に11時半に入りました。昼食を取り、12時半会場入り。と同時に、試合が始まりました。アリアン君の試合は、タイトルマッチの4試合前の10試合目。初めて観る総合格闘技。鍛え抜かれた体で1ラウンド5分、2ラウンド制で戦う。迫力がありました。KO勝ちは14試合中確か3試合だけ。判定に持ち込まれる試合を戦い抜く。そんな総合格闘技に打ち込む若者たちを観て嬉しくなりました。

そして、待つこと3時間余、いよいよアリアン君が、後手の赤コーナーから登場。おそろいの応援タオルを広げ挙げる。アリアン君がそれに気づき、拳を突き上げてくれた。減量で

少し細く感じた体格のアリアン君に対して、相手選手は、がっちりした体格。不安がよぎりました。ゴングが鳴り、始まった。パンチの出し合いから、ふいに相手選手がアリアン君の胴めがけて突進し、倒され寝技に持ち込まれた。体をよじり相手選手を起こそうとするも、相手選手は上から被さって抑え込む。あと2分の合図にも抑え込まれたまま、顔や脇にパンチを撃ち込まれる。足をバタつかせ、抑え込みから必死に逃れようと試みるも、体勢を変えられずそのままラウンドが終了。休憩にコーチのアドバイスが飛ぶ。2ラウンド目もまたしても1分後に胴めがけてタックルされ、倒されて寝技に持ち込まれた。体力差を感じた。顔へのパンチで目の上が切れる。思わず目を背けてしまった。抑え込まれたまま、アリアン君もパンチを出す、腕も抑え込まれ、有効なパンチが出せない。膝で相手を突き上げ、体を返そうと何回も試みるが、相手選手の力が強い。観ていてリングに飛び込んで、相手選手の体をひっくり返したくなった。「アリアン！あと2分、力を振り絞って相手選手を押し返せ！」思わず叫びたくなった。遂にそのまま終了のブザーが鳴った。0対3の判定で負けた。不安が的中しました。プロデビューの前回も減量に苦しんだそうですが、負けはしたもののほぼ互角に戦い、その戦いぶりを観た大会関係者が今回の大会に誘ってくれたとのことでした。今回は12キロの減量だったことを思うと、階級を上げるのもと思うが、それはコーチと本人が決めること。アリアン君、めげずに頑張れ！ホント優しいアリアン君にはと、ちょっぴり感じてしまいました。

“島根県知夫村・オンライン「はぐくみ寮ハウスマスター座談会」に参加して” 2025.9.5 (fri)

下記の隠岐の島小中校視察の一環でこの座談会を知り、現在対応している不登校・ひきこもりの青少年の就労の一つとして興味があり、参加した次第です。しかしながら、参加した人たちの子ども達に向ける想いに圧倒されました。皆さんは子ども達との本物の交流を求め、40人学級での教師の道を捨て、あるいは、大学を休学してまで、限界集落での教育や離島教育に夢を求めている人たちでした。よねちゃん、つなちゃん、あもちゃん、皆さんの情熱に感動しました。まだまだ日本の将来の教育に光は輝きます。

” 隠岐の島小中高校視察に行ってくる。その2” 2025.9.3 (wed)

翌8月30日、朝食後8時にホテルを出て、8時半に西郷港をフェリーで出発、海士町・菱浦港で高速船に乗り換え、10時半知夫里島の来居港で教育魅力化コーディネーター・米倉さんと村教委次長の出迎えを受け、スクールバスで村立小中学校に。小学生12名、中学生5名(内4名が村外生)のホントに小さな学校でした。しかしながら、通学の関係で他の島の小中学校との統合は叶わず、児童生徒数が減少しても廃止することはできず、村外生入学に頼らざるを得ない状況を知りました。次長の運転で人口600人を上回る900頭の牛が放牧されている村内を見学しましたが、ホントに自然豊かな村です。村を案内してくれた米倉さんが、私が30年ほど前関わったことがある長野県泰阜村の「グリーンウッド遊学センタ

一」に6年ほど勤めたと聞きびっくりしたが(当HP「小さな人間たちの詩」の「自信があれば、恐れずにやらせればいいんです」参照)、消極的な村の小中学生に比べて積極的な村外生が村の子ども達にはいい刺激となり、村では国内留学に好意的であると。しかし、小さな離島故に、高校以上にその存続が厳しい状況が伺われました。それにもまして、自身も30年ほど前一時想いを傾けましたが、グリーンウッド遊学センター勤務といい、知夫村での教育魅力化コーディネーターを務める米倉さんの僻地教育にかける情熱に感動した次第です。

” 隠岐の島小中高校視察に行ってくる。その1” 2025.9.2 (tue)

8月28日の深夜の高速バスで横浜駅東口に。更に、バスで羽田空港に向かい、29日5時45分着。そこで参加者16名と合流。7時15分発のJALで出雲空港に8時25分着、更に9時10分発のJAL(プロペラ機)で隠岐空港に9時25分着。島根県教委のお迎えを受け、隠岐役場、隠岐高校、隠岐水産高校を視察。樹齢2000年余の「八百杉」を見学して、ホテルここにチェックイン。18時から味の蔵で懇親会。

隠岐の島の人口は年々減り続け、昨年12,970人に。そんな中でここ10年間の町内の進学者数は平均で、隠岐高校が定員の55.4%、隠岐水産高校が定員の21.48%である。こうした状況から、高校を魅力化しながら平成27年から県外・町外からの生徒募集を始め、平均の定員充足率が、隠岐高校が74.8%に、隠岐水産高校が61.6%になった。しかし、町内の現在に0歳児から15歳の子ども数から、現在町内にある3つの小学校と2つの中学校が5年後には統合せざる得なくなるという。10年後には両高校共に存続の危機に遭う。

私も2011年からこうした国内の県立高校の国内留学のお手伝いをさせて頂いてきたが、今回の視察で離島の状況を目の当たりにし、関わっておられる方々の大変な苦勞を感じた。自然豊かで特異な生態系も存在するユネスコの世界ジオパークに登録された環境と、なんと300余の神社・寺院が立て並ぶ神話や伝説が多い歴史も持つ町。たださしてジオパークに関心を持たない子ども達も増え、ましてや神社・寺院に関心を持つ子ども達もそれほど多くない現状から、特に普通高校の隠岐高校に魅力を感じさせる方策に日々奮闘されている人とお会いし、応援したくなる。それでも、数字を見た通り、隠岐水産高校は漁業系と船舶機関係を持ち、全国でもトップクラスの水産高校故に、県外生徒数が町内生徒数を上回る。しかし、離島故に今後の高校存続危機回避に向けて、全国単位で応援していかなければならないと感じた次第です。

” 「愛されたい病」(桑島隆二著)を読んで” 2025.8.22 (fri)

この8月に出版されたばかりの本ですが、愛着障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害、自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)がよ〜く分かりました。私達はこれまで様々な本を読み話し合い、手探りでその対応をしてきましたが、これほどまで明確に各症状の原因とその具体的な対応が示され、納得がいく本に久しぶりに出合いました。早速この本の内容を元に、自分とスタッフ用の約30ページほどのレジメも書き上げ、これ

までの対応の見直しとこれからの対応に活用していこうと思います。愛着障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）の対応をしている方々は、是非お読みください。たくさんのお示唆に出会おうと思います。

” 2025 小淵沢・夏交流合宿、大成功！” 2025.8.22 (fri)

大成功の興奮に浸り、ちょっとここでの報告が遅れちゃいました。参加者全員が目論み通り大きく変わり、大成功でした。その一人の子の変化を「小さな人間たちの詩—17～18 歳の高校生の心理変化」に詳しく書いてありますので、お読みください。やはり子ども達は、同世代の仲間たちと群れ集う中で、自分を知り、仲間を知ることによって、成長するんですね。

” 2025 小淵沢・夏交流合宿迫る。” 2025.8.8 (fri)

いよいよ 8 月 11～13 日に開催される、「2025 小淵沢・夏交流合宿」が迫ってきました。参加者は本日のところ全 7 名。不登校・ひきこもりの解消も兼ねて行われる合宿です。今回の非認知能力育成のチームビルディング研修は、2 泊 3 日かけてみんなで行う謎解き研修。こんなに長く深い研修は初めてで、不登校・ひきこもり解消に向けてのその効果を大変楽しみにしております。いつも述べることですが、社会性を有する人間故、同世代の仲間たちと群れ集いながら、自分を知り、仲間たちを知る、そうして群れ集う楽しさを体感することによって不登校・ひきこもりをその素因から解消していく。この合宿に参加した子どもたちが社会的、精神的自立を果たすことが楽しみです。

” 県教委社会教育課主催のオンラインサロンに参加して。” 2025.8.1 (fri)

昨日 15 時から 1 時間余 zoom で行われましたが、参加したのは当フォーラムを含めて 3 団体でした。皆さん、不登校やひきこもりに対応している団体でしたが、その対象者と接する機会の確保とその方法や団体の周知に苦勞しているようでした。勿論、当フォーラムも同様です。特に昨今では情報化社会でありながら、個人情報のあることもあり、我々の方から情報を掴んでアプローチするのが難しく、アウトリーチが課題になっています。

従って、不登校やひきこもりの当事者やその保護者が我々のような相談機関等に出向いて頂けるべく、先日 7 月 26 日のように県教委社会教育課主催の合同相談会が開催されているのが現状です。

しかし、相談機関にも繋がっていない不登校の子どもやひきこもりの若者が増えていきます。では、どうして不登校やひきこもりの当事者やその保護者が相談機関等に繋がろうとしないのでしょうか。

その背景には不登校もひきこもりも、今まで様々な機関に相談に行っても、話は聞いてくれますが、当事者の気持ちが満つるまで待ちましようなどと言われ、具体的な解決策を提供してくれません。否、そもそも不登校、ひきこもりは解消するものではなく、そういう存在

を前提に、対処療法的に対応している現状から、当事者やその保護者も、積極的に相談機関等と繋がってその解決を図ろうとは思っていないのではないか、と思えます。

しかし、当フォーラムでは、不登校もひきこもりも、下記の7月28日にも述べました通り、心理テストや詳しい成育歴から、その心理的原因や対人的原因を分析し、人間の特性を活用してその原因からの解消を目論めば、必ず解決する、と捉えております。本ホームページの「小さな人間たちの詩」をお読みください。様々な解決の事例を述べさせて頂いております。従って、我々がそうした解決の実績を積み、それを広く周知していくことで、当事者やその保護者が不登校、ひきこもりは必ず解決する、との認識に至り、相談機関等と繋がりを持つようになることだと思えます。そのためには、現状の相談機関等が同様な認識を持つことが前提となります。

” 学びの多様化と伴走型就労支援に想う。” 2025. 7. 28 (mon)

NPO 法人静岡県教育フォーラム立ち上げ当初から言い続けてきた言葉。「人間は社会性を有する動物故に、同世代の異年齢の仲間達と（相対的に）群れ集う中で、自分を知り、仲間を知り、群れ集う素晴らしさを体得しながら、成長する。そのための認知能力（自立生活をするための技能の習得：学び）と非認知能力（人と関わり合う技能の習得：交流）を共に実践する場が、学校である。」その故に、私達はその学校に登校できない素因を分析し、その素因からの解消＝登校支援を、社会的自立を阻害する要因からの解消＝就労支援を行っています。

しかし、不登校の子どもたちや社会に参加できない若者を育ててきたことを検証、対処せずに、そうした子どもたちや若者の存在を前提に「学びの多様化」や「伴走型就労支援」の名のもとに、対処療法をする方向でいいのだろうか。

50年前、猫も杓子も喫茶店でインベーダーゲームに興ずる若者を憂い、雑草の如く、ナイフ一丁で生き抜く子どもたちを育てようと「フォックスファイヤークラブ」を構想し、20歳の学生ながらそれを運営する有限会社参画に参加した（400万の出資を求めた）時と変わらぬ自分に気付いた次第です。

” 就労支援の一つの現状に疑問を呈す。” 2025. 7. 26 (sat)

ある女性が職場体験や見学に行ったりしているが、なかなか就労先が見つからず困っているようです。本人の希望が、人に会わない仕事、接客・対人関係と交代勤務はダメのようです、と。

しかし、元来「人の行う仕事とは、その役務によって相手に利益をもたらし、その対価として報酬を得るもの。」その相手は人であり、その役務が「人と会わない仕事、接客・対人関係と交代勤務のない仕事」というものがあるのでしょうか？例えばラインの仕事でも必ず人との打ち合わせを要します。仕事には必ず人との引き継ぎがあります。そんな人と関わらない仕事を探すより、その人が「人に会う仕事、接客・対人関係と交代勤務ができる」よ

うにカウンセリングをするのが、その人に対する就労支援ではないでしょうか。

”子どもの居場所の提供が、民間教育に望まれている。” 2025. 7. 13 (sun)

NPO 法人静岡県教育フォーラムは、正しくこれに応え、子どもの居場所事業を取り組み始めております。

「塾と教育」7月号が今の教育界、私塾界を分析する。全国の公立高校の定員割れ、中心部のトップ高のみが辛うじて倍率を保つ。今春の塾の生徒募集は全滅状態。個人塾の集客も鈍化。公立中高一貫校の新設増加に、中学受験熱が高まる。大手塾と個人塾の二極分化。中学受験の個人塾も低迷。成績下位層対象の5教科5000円の低価格塾が盛況。定員割れに呼応して、通塾の必要性を感じない中3生の私塾入学時期の遅れ。中3生の選択肢に通信制高校が入る。保護者の80~90%が共働き、その親のニーズは、親が帰宅するまでの子どもの面倒をみてもらうこと。そのため、塾を母体とする学童に保護者のニーズが高くなる。今では大学も飽和状態。学校推薦型入試を志望するようになり、高校入試と同様に、大学入試の通塾の必要性がなくなってくる。従って、子どもの学校の勉強や宿題を見る、子どもの居場所の提供が求められてくる。

冒頭申し上げました通り、そうした要望に応え、且つ、日本人のみならず日本語を母語としない子どもたちの不登校解消支援を併せ持つ、子どもの居場所事業がこの秋からスタートします。

”「脇役になれない子どもたち—不登校の正体—」桑島隆二著（アメージング出版）からの抜粋です” 2025. 6. 26 (thu)

勉強ができるのかできないのか、分からない通知表

2001年に改訂された指導要領は、観点別学習状況の評価を総計する形で絶対評価を行う。そのため、子どもたちは勉強ができる人なのかできない人なのか、自分ではよく分からなくなった。

何でもできると思う感覚

幼い子どもが自分は何でもできると思う感覚のことを心理学では、「幼児的万能感」と言う。自分の能力を適切に把握できていないからこそ、自分は何でもできると思ってしまう。この幼児的万能感は、年齢が上がるとともに次第に消滅していく。10歳ころまでには、自分にはできないことがあることを知る。

主役から脇役への格下げ

大人になることは、自分にできないことをたくさん知る、ことでもある。しかし義務教育を受けている間は、自分は特別で無限の可能性のあることを信じさせられる状態が続く。ある日突然、何でもできて特別であると思っていた自分が、実は何にもできない普通以下の人であると気が付く。そんな特別な主役から普通の脇役への急な格下げに対するショックは、とても大きい。学校に行けなくなるのは、当然の結果と言える。

不登校が始まる瞬間

自己評価を疑うような疑問が何度も湧き上がって積み重なった時、その瞬間は確信へと変わり、大きな不安となって自分を飲み込む。積み重なった恐怖心が臨界点に達して爆発したような、とても大きな不安である。この不安が押し寄せてきた時が、まさに学校に行けなくなる瞬間である。主役から脇役に転落した瞬間である。不登校の約半数は原因不明の「無気力・不安」を訴えるが、その多くはこのような不安に当てはまる。

人間は、自分が集団の下位にいることに対して異常なまでに恐怖心を覚える。この恐怖心は、人類が十万年以上かけて脈々と受け継いできたもので、とても強固なものである。気の持ちようや、気分転換でどうにかなるレベルのものではない。

心の中で思っただけなのに

死ね、ウザイなど邪悪な考えは、殆どの子どもは、心の中で思っただけである。ただ、その邪悪な考えにも程度がある。激しい邪悪はすぐに打ち消すが、些細な邪悪は思考を巡らせて妄想が膨らんだりすることがある。そして人を鼻で笑うような、小ばかにして見下すような考えは、激しい邪悪とは思わないため、その思考が続きやすい。こうして子どもは、口に出さないものの、他の子どもを見下す気持ちを膨らませて、安心を感じながら学校生活を過ごしている。

子どもは口に出さないことは考えていない、という大人の思い込みは間違っている。子どもにしてみれば、他の子を見下すことは心の中で思っただけで、口に出して怒られたことはない。むしろ、普通に過ごしているだけで褒められることの方が多い。そのため、そのことに大きな原因があるとは思えない。

不登校になった子どもは、自分がどうしてこんなにも強い不安に襲われてしまうのか、実は全く分からない。これが、不登校の子どもが何も語れない原因の一端でもある。

思いはすべて自分に返ってくる

自分より格下の子や脇役にいる子に対する見下した思いは、自分がその地位に転落した時、主役から脇役に転落した時に、そのまま自分への思いとなって返ってくる。格下の子や脇役でいる他の子に対し、「苦手だから、仕方ないよね」「人は色々だから、それでいいじゃん」というような軽い気持ち、優しい気持ち、あまり気かけないような気持ちでいたとする。この状態で、自分が何かの分野で下位に転落したとしても、「他の人はきっと大して気にしていないから大丈夫」「自分も気にしてなかったんだから、他の子だって気にしてないよ」と軽く考えることができる。人間は、『自分が普通に思うことは、他の人もすべて同じことを思っている』と考えて生きている。人は無自覚に、自分と他人は同じ考えだから安心だと思ふ。だから、肩肘を張らず気軽に会話や挨拶ができる。何の疑いもなく信じることができる根拠は、「自分がそう思うのだからあの人も同じだと思うはず」という自分の主観のみである。この思い込みがあるからこそ、相互信頼を前提とした安心、安全な社会が成り立つ。

これに対して格下の子や脇役の子に、「バカだなあ、あいつ」「ださっ。ほんとだめだなあ」

というような気持ちを抱いたとする。この状態で自分が下位に転落すると、「みんなにすぐくバカにされている。自分のことをダメな奴だと思っている」と思ってしまう。みんなが自分に対して思うことは、かつて自分が他の子に対して思ったことそのままなのである。自分の親が死んだときこんなに悲しかったんだから、あの人が親を亡くした悲しみも同じ位につらいだろう、と思う。

教室に入れない子が、他の子の視線が気になる、とよく言う。担任や親から見れば、教室にいる全員が誰もその子のことなど気にしていないことが分かるから、「気のせいだよ」と声をかけて入室を促す。しかし、その子は、自分が思うことは他のみんなも絶対に同じように思っている、即ち、不登校になった自分は変な子（ダメな子）とみんな思っている、という考えから抜け出すことができない。大人が子どもに対して、そんなこと誰も気にしないから大丈夫だよといくら言っても、不登校の子には響かない。

本日、藤枝市教育委員会主催「藤の子教室進路学習会」に参加してきました。毎年感じるんですが、不登校の素因（幼児万能感・無知自）をそのままにして、「学習の多様化」の名のもとに、小学校の学習で高校課程の単位を取得する。「マイクラ」レベルで高校「情報Ⅰ」を単位認定する。週2日登校で、週5日勤務の社会に送り出す。・・・それでいいのだろうか？この会に参加して20年余で、今や不登校生31万人時代。学習の多様化の前に、不登校31万人も生み出したその原因を追究し、対策を講じるべきと考えます。その意味で、今回抜粋させて頂いた桑島隆二氏の考えに大いに賛同致します。偶然見つけた本書ですが、その著者が、まさかこの数年で2人の当時不登校で対応した生徒が通う静岡英和学院大学の専任講師と知って、驚きました。己は他人との比較で知る。人間は、同世代の仲間たちと群れ集う中で成長する。「登校拒否」に出会って30年。6月7日の本稿で描きました通り、対応2か月で数え始めて248人目の生徒が授業復帰を果たしました。なんとなく捉えていた「不安感」「緊張感」の原因が、本書で明確になりました。皆様も是非お読みください。

”外国につながる子どもたちが「自分らしく生きる」教育伴走支援事業の挑戦” 2025. 6. 14(sat) (株)キズキの休眠預金事業「急増する『不登校・長期欠席の子どもたち』支援モデル形成事業」に表題の事業を申し込みました。即ち、「日本語を母語としない子どもたちの不登校0」を目指す事業で、本年9月から令和9年まで2年半行います。6月9日のNHKニュースーンでも取り上げた「母語による教科学習支援」を取り入れ、日本語を母語としない子どもたちの不登校を無くす事業です。8月上旬の採用決定まで、これから3回にわたる審査を受けます。認定NPO法人e-educationとの連携で、当「虹の架け橋菊川小笠教室」で昨年7月から始めた同事業の拡大化を目論んでおります。

“対応2か月で、4か月ぶりの授業復帰なる” 2025. 6. 7 (sat)

また一人、不登校を解消し自立していきました。詳しくは、「小さな人間たちの詩」をお

読みください。勿論、当人を特定されないよう、趣旨に沿って一部を変更してあります。対応しているもう一人の生徒も、週2日登校から一昨日と昨日と、2日連続登校を果たし、完全登校に向けてまた一歩踏み出しました。不登校解消は蛹の孵化と同じ。もがき苦しみながら自立へと歩み始める。私達はそれを応援していきます。

“東進衛星予備校藤枝駅南口校 生徒数 37 名に “2025. 6. 1 (sun)

お陰様で、5月31日の夏期特訓割引期限を迎え、当藤枝駅南口校の生徒数が37名になりました。昨年同月対比5名増ではないかと思えます。これも私以外8名のスタッフの皆さんの努力と皆様のご支援のお陰と感謝しております。ありがとうございました。今年度の前期目標まであと13名。これから始まる「夏期特別招待講習」で達成しようと目論んでおります。勿論、そのためには、第一志望合格に向けてお預かりした生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導です。お任せください。50年に渡る受験指導の経験を活かして対応致します。

“新たな事業への挑戦 “2025. 5. 18 (sun)

5月9日審査発表の2025年度藤枝市学習チャレンジ事業は、不採用でした。事前に4年連続の挑戦は厳しいと言われていたため、予想した結果ではありました。しかしながら、殆どが定期試験5教科合計二桁得点の子達ながら、初めて200点度超す子が現れ、その子が今年度中学3年になることと、あるいは、この3年間地道に教えて来た子ども達が受験まで見届けないことには少し残念な思いがしますが、致しかたないこと。でも、いよいよ全国初、不登校・不就学解消支援や、日本語を母語としない子ども達の教科指導支援、被保護世帯の子ども達の学習支援を併せ持つ、新しい形の「子どもの居場所」造りが、この5月末からスタートします。その準備もあつての下記の「1泊2日の一人旅」。その詳細は、今後明らかになりますが、70歳にして新たな挑戦が始まります。

“1泊2日の一人旅でリフレッシュ “2025. 5. 5 (mon)

この5月2,3日、いつものペンション・月下草舎(山梨県北杜市)に、1泊2日、電車とタクシーで、のんびり一人旅してきました。朝からビールや酎ハイをちびちび飲みながら、電車に揺られ、スマホに見入る周りを尻見に、小雨降る初夏の甲斐の自然を堪能してきました。ちょうどガラ系の携帯が故障で電話できず(5日再起動で無事復能)、圏外でスマホも使えず、周りから遮断された世界で色んな思索に耽っておりました。道の駅小淵沢で仕入れた地元ワインや米焼酎、夕食用の巻き寿司も加わり、手帳を振り返ると、7項目に渡っての思索の跡が残っております。また、普段1日3,4時間のショートスリーパーの私が、なんと7時間も寝入り、3日は実に清々しい朝を迎えました。そして、朝5時半からロビーで迎え酒を浴びながら、「3つの戦争」を読み耽る。朝食後も、再びその本を読み耽る。10時半、ペンションオーナーの笹沼氏に、ほうとう料理の権六に送って頂き、スタッフへの土産を買

い、タクシーで JR 小淵沢駅に。あずさ 30 号、ふじかわ 10 号と乗り継ぎ、八ヶ岳、南アルプス、富士山を眺めながら、帰藤。藤枝～静岡以外は、全指定席。電話もメールもなく、何も考えず、移り行く自然を眺めながらの電車旅。たまには、こんな時間もいいもんですね。

“藤枝駅南口校で 2 名のスタッフを迎える “2025. 4. 13 (sun)”

当東進衛星予備校藤枝駅南口校では、1 名の担任助手が卒業・就職したのに併せて、担任・担任助手 2 名を迎えました。昨日午後、東進本部主催の担任・担任助手研修を先輩の担任助手たちと一緒に受講、約 2 か月ほどの研修がスタートしました。お陰様で昨年を上回る生徒数で新年度が始まったことを受け、更なる生徒の増員を目論んで担任を採用しました。東進の教育目的、単なる大学入試合格がけでなく、高い志を持って、世界に貢献できる人材を輩出すべく、日々スタッフ一同、生徒達に対応していく所存です。私も今年、いよいよ 70 歳になります。教育事業に身を投じて 50 年。来年早々新たな拠点も始まります。これから 5 年後を目途に一連の事業を安定化させ、その後は一線を退き、後継を見守っていくつもりです。そうだ！「不登校・ひきこもり解消支援士講座」も再講し、その面での後継者を育てなくては。

“琉神コンサート聴く “2025. 3. 18 (tue)”

過去 2 回の座間味交流合宿と 1 回の沖縄本島交流合宿で沖縄の芸能や音楽に触れたことはありましたが、今日ほどどっぷり漬かることはありませんでした。感激でした。紹介して頂いた飯田電機社長に感謝申し上げます。ただアンケートにも書かせて頂きましたが、聴かせて頂いた沖縄の唄の意味を書いた字幕も一緒に流して頂くと、味わいがもっと深くなったかと思えます。ご検討下さい。

“manafull” 2025. 3. 17 (mon)

認定 NPO 法人 e-education 理事長・三輪開人氏が作り出したシステムです。日本語を母語としない子どもが日本で教科の勉強をする時に、母語を同じくする先生に zoom を通じて母語で教えてもらうシステムです。2010 年から日本語を母語としない子ども達の日本語の初期支援事業に携わってきましたが、日本語のみならず教科指導、とりわけ算数・数学指導が必要となり、当然の如く学習塾を本業とする私達は、日本の学校で行われている教え方で指導してきました。即ち、算数においてはまずは「九九」を覚えさせ、それを使って種々の計算を指導してきました。ところが、指算や棒算でやり、なかなか「九九」を暗記しようとする子どもが現れ、苦慮していたところ、例えばフィリピンでは「九九」の 9 の段は、一の位は 9 から降べき順、十位は 0 からの昇べき順で覚えていることに気付き、昨年 7 月から、虹の架け橋菊川小笠教室で、特に算数・数学の基礎指導において、その国の教え方に準じて教える、この manafull を採用しております。今や小中学生全員にタブレットが配布されている時代。全国の日本語を母語としない子ども達の教科指導においては、この manafull が活

用されていくことを願う次第です。

“ついに京都大学合格者を出す！” 2025. 3. 10(mon)

正直、50年間予備校界に身を置いて初めて、京都大学の合格者を出しました。しかも、あの西田幾多郎氏を生んだ文学部哲学科合格です。彼の努力と、彼を支えた当校スタッフに拍手喝采です。おめでとう！そして、ご苦労様でした。今日は他に、筑波大学、名古屋大学、鹿児島大学、徳島大学・・・と、国立大学合格の報が立て続いた。これが、私達が年1回貰う成績表である。(5.6追記。待てよ、知新塾—静岡 オープンスクールの前進—時代に、京大農学部だったか？工学部だったか？合格者がいたなあ。ごめん、久しぶりだったんで、興奮しちゃいました。)

“中学校3年時皆欠席が、高校は皆出席で卒業” 2025. 3. 8(sat)

(「小さな人間たちの詩」に掲載させて頂きました。)

“「小さな人間たちの詩」書き込み続けております。” 2025. 3. 7(fri)

下記の通り、1月31日から「小さな人間たちの詩」を、今は「ひげぐま先生のひとりごと」からアットランダムに、場合によっては一部修正しながら転記し続けております。でも、自分でもこんなことがあったんだ、などと懐かしながら転記しています。

“令和7年になって初めてのひとりごとです。ご無沙汰しておりました。” 2025. 3. 4(tue)

ホント皆様には大変失礼いたしました。昨年某月、某社から「小さな人間たちの詩」出版のお話を頂き、その編集・構成・修正にかかりつきりになり、すっかりこの「ひとりごと」の書き込みを放置しておりました。

思い起こせば、起業した静岡大学2年生の時にも、大学の先生の紹介で大手教科書出版社から同様のお話があり、生意気にも「こうした子ども達の姿はポンポン出るもんじゃあない」と断ってしまったことがありました。今回の出版も本当に実現するかは全く分かりませんが、2020年の同ページの書き込み以来そのままになっておりましたので、書き始めました。同ページもお読みください。